

## 7月の住職のひとこと



### 新盆7日法要

8月1日～7日毎朝5時から  
一般の檀信徒の方々も、志  
ざす霊位のご回向をお申  
込みいただけます

誰でもが『人生の四季』（青春・**朱夏**・**白秋**・**玄冬**）のいずれかを《今》生きている。季節の四季は何度でも巡ってくるが、人生の四季は、いつであっても**たった1回限り**…青春は30歳頃まで、朱夏は30～50歳ぐらい、一番の働き盛りであろうか。白秋は50～70歳頃まで、そして玄冬はそれ以後。

H15年7月、師父亡き後、寺門・幼稚園運営共に朱夏を経て白秋の半ばを過ぎた今日、その来し方を振り返ってみると、猪突猛進の連続であった。『なかば来て 高根ながめの 一休み』心模様を変えていかねば…その想い、実に大である。

季節の四季は巡り、今年も《お盆》が間もなくおとずれる。年中行事の中でも特に日本人が昔から大切にしてきたこの行事が、核家族の中で、今や見失われつつあることは、寂しさを乗り越えて憤りすらおぼえる。追い討ちをかけて、一向に収束を見ぬまま第7波に突入したコロナ禍は、私達の心を蝕み、激変させてしまったのではないだろうか。

自らが体験したことのない《死》というものを、祖父母・両親・伴侶・子供等、身近な存在、掛け替えのない存在を失うことで、その悲しみ・苦しみの現実を直視し、生きているとは、死ぬ命をかかえていること、そして、確実にその日が近づいてくることを、先人は身を賭して学んできたはずである。

恵まれた毎日を送っていると、それが当たり前、感情的マンネリがいつしか人としての《命の尊厳》を凝視する眼差しを覆い隠してしまい、二度とない人生・二度とない今日・只今を限りなく見落とし続けてきたのが、経済大国日本の大きな落とし穴であったといえよう。出会うということは、心と心、命と命がふれあうこと、顔と顔との〈であい〉は何とお粗末なことか！ 私達の日常に〈であい〉を取り戻し、真剣に〈であい〉の道を切り開いていこうではありませんか…コロナ禍の中でこそ、〈お盆〉を向かえる心…『これでいいのか』は『このままではいけない』ということ。